

ありのままの自分で生きる

大野市 陽明中学校 三年 芦原 奈那美

「お前、本当にそれがチャームポイントだと思っ
ているのか。」

クラスメイトから言われたこの言葉が、私の心を強
くさせました。

私の左頬には、生まれつき「いちご状血管腫」とい
うあざがあります。いちご状血管腫は、未熟な毛細血管が
増殖してできる「赤あざ」の一種で、良性の腫瘍です。
生後二、三週間、遅くて三ヵ月以内に発生して、一歳頃
に大きくなります。

私の場合、生まれてすぐは平らで、小さな紫色をした
あざでした。一ヵ月検診に行った時、そのあざを見た先
生から、

「これは、いちご状血管腫というものだから、すぐに大
学病院に行って治療をした方がいい。」

と言われました。私が住んでいる福井県には、いちご状
血管腫を治療できる病院はないとのことで、隣県の金沢
大学附属病院に紹介状を書いてもらい、すぐに診察に行

きました。

診察の結果、赤みを消すため、すぐにレーザー治療を行うことになりました。レーザー治療をしたとしても、個人差があって、完全に消える場合もあれば、消えない場合もある、という説明を受けました。母は、女の子だし、顔にあざがあるのは目立って可哀想だと、どうかこのレーザー治療で少しでも目立たなくなってくれ、と願ったそうです。意味も分からず、スヤスヤと母に抱かれて眠っていた私が、レーザーを当てられた瞬間、悲鳴のような泣き声を上げ、泣き叫んでいたと、母は胸が張り裂ける思いだった、と教えてくれました。

一歳になった頃には、大きな梅干しくらいの大きさとふくらみになり、レーザー治療を続けていても、なかなか目立たないようになりませんでした。保育園に入った頃には、赤みは薄くなり、ふくらみが残ったままでした。

いちご状血管腫は、日本人の百人に一人の割合で発症すると言われており、そこまで珍しい病気ではありません。私が、私の周りには、同じいちご状血管腫の子がいなくて、みんなから好奇の目で見られることも少なくありませんでした。

そんな時、保育園の園庭で遊んでいると、一つ歳上の

男の子から、

「たんこぶ！」

と大きな声で言われました。私は、すぐに泣いてしまいました。泣きながら、先生に伝えると、先生はその男の子を叱り、その男の子が謝りに来ました。しかし、私の心のモヤモヤが晴れることはありませんでした。

小学生になり、赤みは無くなったので、レーザー治療は終わることになりました。ふくらみも少し減って、だいぶ目立たなくなりました。

そう思っていた私に、またもや心をモヤモヤさせる出来事が起こりました。クラスのみんなの前に立って、一人一人が自分の長所や短所を紹介する授業の時に、担任の先生が、私に、

「奈那美ちゃんのほっぺは、チャームポイントだね。」と優しく言ってくれました。私は嬉しくて、照れくさく笑っていると、クラスメイトの男の子から、

「お前、本当にそれがチャームポイントだと思っているのか。」

と冷たく言われたのです。私は、すごく悔しくて、

「思っていないよ！」

と、強く言い返しました。でも、保育園の時のような、ただ泣いていただけの自分とはどこか違う気持ちでした。

もちろん、モヤモヤした苦しきもありましたが、それよりも、先生の言葉がきっかけで、自分は自分、と前向きな気持ちが強くなったのです。そして、自分がそういう気持ちを持てるようになってから、不思議と、周りから頼について何も言われなくなっていきました。

私は、この経験から、人はどうしても自分と周りを比べて、違う所に目を向けてしまうものだとは分かりました。そして、人と違うことに恐怖や不安を感じてしまうのです。これこそが、いじめや差別につながり、自分に自信が持てなくなる原因だと私は思います。

しかし、私のように、何か「きっかけ」があることで、前向きな気持ちに変わることでもできます。

私は、あざを持って生まれてきました。そのことで、悲しい思いもたくさんしてきたけれど、きっかけがあった、ありのままの自分で生きられるようになりました。

私が思う人権とは、ありのままの自分で生きることです。そして、相手のありのままも受け入れることです。

もし、悩み苦しんでいる人がいたら、その人がありのままに生きられるようになる「きっかけ」に私はなりたいです。